NPO 法人　ふろんてぃあタウン工房

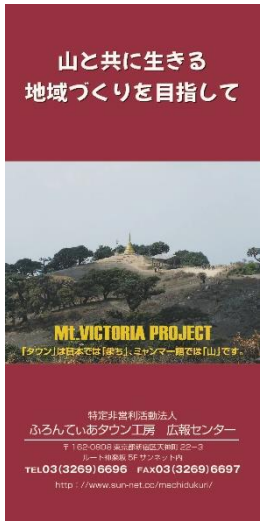
ふろタン通信

2023年5月22日　　広報センター　　Ｎｏ．４７

「少し遅れた新春号です！」という見出しで3月3日のひな祭りに発信した通信No. 46では、今までふろタン工房がホームページの出版コーナーに掲載している三冊の本、「フロンティアまちづくり読本」「御嶽山とビクトリア山」「ふろタン年表 2021」を挙げ、 小説「その日から…」を新出版事業として準備中です！と書いていました。
本号は「準備が整い、いよいよ出版です！」という新活動の発信号です。

◆ふろタン工房のリーフレット

　ふろタン工房はスタート時から活動のお知らせや報告は機関紙「ふろタン通信」で行ってきましたが、今から9年前2014年2月26日発行のNo. 1と4月4日のNo. 2の頭には NPO 法人が付いていません。NPO 法人設立に手間取っていてやっと6月16日に東京都からNPO法人設立認定書が届き、6月20日の「ふろタン通信」No. 3に「ふろんてぃあタウン工房」本格スタート宣言を載せています。
　ホームページのふろタン通信バックナンバーコーナーをチョット覗いてみましょう。
気が付く人はあまりいないと思いますが、バックナンバーコーナーはNo. 1からではなくNo. 0から始まるのです。「UR ワンダーフォーゲル同好会」が、設立40周年記念事業として2013年3月に行った「MT.VICTORIA　PROJECT」、第1次ミャンマー遠征ビクトリア山登山を載せた機関紙「渡り鳥通信」No. 910(2013.4.15)をNo. 0 として掲載、このプロジェクトを「ワンゲル同好会」から引き継いだ「ふろタン工房」が、最初のビクトリア山現地調査に出発する精鋭隊メンバーの紹介を「ふろタン通信」No. 1 に載せたのです。
　スタート時の会員集めに積極的に使われていたのが「ふろんてぃあタウン工房」のリーフレットです。
リーフレットのデザインも少しずつ変わってきましたが「MT.VICTORIA　PROJECT」の表示とビクトリア山の写真はずーっとそのままです。



◆森づくりを夢みる乙女の物語
小説「その日から…」

「森に親しむにはね、自分の好きな樹とか草花を決めておくのもいいね。その植物に関心を持つと、名前だけじゃなく、もっとよく知りたくなる。いろいろ調べると、その仲間の樹とか、昆虫、野鳥、他の動物との関係なんかも出てくる。どんどん面白くなる」
「はぁ、そうですか。A さんの好きな樹ってなんですか」
「そうだね、俺が一番好きなのはハルニレかな。樹形がいい、幹が真っ直ぐに立って枝のバランスが良くて、形がすっきりして非常にいい。アイヌの人達は『森の女神』として崇めていたそうだね」

第1部　森づくりグループ『メイプル』
第2部　『森を知る・森に学ぶ・森で遊ぶ』
第3部　メイプルの定例活動計画
そして『夢』

そして『夢』
　ミズナラの植樹地の地面にシートを敷き、仰向けに寝転がる。
葉の隙間から空が見える。
うとうとしていると、人の足音が近づいて来て止まった。
薄目を開けると、若い娘が一人、こちらを見ていた。
こんな所に人が寝ていると驚いているのか。
私はゆっくりと起き上がり、座ったまま顔を向けて、笑って見せた。
「ここからが森の遊歩道だよ。」
入り口にある樹を指して「これは今年の春先にメイプルシロップを採った痕なんだ」
　「この会は、キノコ採りをやってキノコ汁を楽しんだり、木で何かものづくりをしたり，色んなことをやって結構気楽な会だよ。森づくりは永い時間がかかるから一代や二代ではできない。君の様な若い人達が参加してくれることはとても有難い、いい事なんだ。メイプルが発足してから植えた木も大分育ってきている。小さかった苗木が 5･6 メートルにもなると大分景色も変わって嬉しくなるね」
しばらく歩いてから後ろを振り返ると、彼女の姿はどこにも見えなかった。
「なんだ夢か…」そう思った時、目が覚めた。
「品の良い綺麗な娘だったな…。森の精だったのかな」
樹々の間からは、午後の日が差し込んでいた。